

最初の難関 家探しとプチ観光

早いもので、8月19日に日本を出発してから1か月が経過しようとしています。私自身、初めての海外渡航ということで、出発前から、また今現在もハラハラした毎日を過ごしています。

最初の1週間は3食付きのホテルが用意されていたこともあり、メキシコでの生活に入っていくという実感が全くありませんでした。自分で家を探さなければならなかったのですが、いい家がすぐに、簡単に、見つけれられるだろうと思っていました。しかし、メキシコでの生活水準・食事・ライフラインなどを頭でしか分かっていなかったこと、相手の説明が早口すぎて常に“Habla despacio, por favor (ゆっくり話してください)” 言っている状態であったため、家を決定したのは、ホテルでの生活がほとんど終わる頃でした。しかし、入居した家は現地の携帯電話の電波が入らなかったため、体調を崩した時に誰にも連絡が取ることができませんでした。連絡が取れないということのつらさを初めて味わいました。そこでCEPE（外国人のためのスペイン語教育スクール）の方に相談を持ち掛けると快く応じてもらえて、電波が入る地域に改めて引っ越しをすることが出来ました。

そんな中、私を外に連れ出してくれる友人が出来ました。彼女は、日本へ留学していたことのある人です。彼女とは日本語とスペイン語を混ぜた“japoñol (ハポニョール)” でコミュニケーションを取っています。メキシコで初めて食べたタコスやチュロス、チョコレートのレストランは彼女が案内してくれました。また、というクラシックのコンサートや演劇が行われる有名な劇場“Bellas Artes (ベジャス・アルテス)” や、Ciudad de México (メキシコシティ) の中央広場“Zocalo (ソカロ)” にも連れていってくれました。そばの大通りには、サボテンの上で蛇をくわえた鷲のモニュメントが堂々と輝いていました。これは、アステカの民が首都を決めるために、「サボテンの上に蛇を食らう鷲がいる土地」を探して200年もの間さまよった、という伝説を表現したものです。

まだまだ慣れたとは言えないメキシコ生活ですが、小さな積み重ねでスペイン語を上達させ、私自身の見識も広めていきたいです。



メキシコで有名な劇場“Bellas Artes（ベジャス・アルテス）”



メキシコシティの中央広場“Zocalo（ソカロ）”



「サボテンの上で蛇をくわえた鷲」のモニュメント